

# 柳橋の獅子舞【やなぎばしのししまい】



## 【芸能の概要】

柳橋の獅子舞は庄司川で獅子が禊ぎをして、神事後、町内の各戸の庭先で舞われる。獅子舞は「ダシ(イリ)」「ナカノキリ」「ノリ」の3段階があるが、全てを舞うのは神社・公民館横等の特別な場所でのみ舞う。他の場所では最後の「ノリ」だけが舞われる。クライマックスは公民館横で舞われる時で、同時に神相撲が行われる。獅子舞と神相撲が組み合わせられた伝統民俗芸能は大変珍しい。

## 【芸能の特徴】

獅子は御神輿の後をついて回っていたといわれ、古くは、中・庄司・柳橋・津島・吉北の5地区を舞っていた。昭和57年の大洪水でも宮司を舟に乗せ、区を回った事があり、獅子は水に浸かっても進み、舞を中断した記憶はないという。郷土の大事な年中行事としての位置づけが強い。戦後一時期人手不足もあって、獅子舞は神社のみとし、各戸では獅子をささげるだけの時期もあった(柳橋の獅子は口は開かない)。現在、子供から少年・青年・壮年・OBの序列がしっかりした中で、獅子舞に関係する人は「獅子若」と呼ばれ、伝統が引き継がれている。祭りでは、獅子のお休み処が各戸持ち回りで定められ、獅子頭は家に飾られ接待がある。獅子が回ると「花」とよばれる寄進があり、大声で披露され、拍手が起こる。

## 【使用する祭具・道具など】

獅子頭は明治初期の年号の蓋の付いた箱に入っており、蓋には「妹掘獅子女」の文字が読める。これは「いもほり雌獅子」と解され、柳橋の獅子が「デハ」で地べたを掘るように舞うことから、芋を掘る仕草に例えて当て字で名付けたものといわれる。現在の舞いはそれを良く受け継いでいる。また、獅子頭は1本の木をくりぬいたもので珍しく、重い。1976(昭和51)年6月に修理した。笛は後継者難。若手の女性と年配者だけで4人。これから新人の育成を課題として抱えている。今の笛は音色がきれいに揃っており、獅子と良く合っており聴きやすい。

## ・アクセス

JR バス幸袋中バス停より徒歩30分、  
JR 筑豊本線新飯塚駅より車で15分

## ・周辺の観光

飯塚歴史資料館、勝盛公園、伊藤伝右衛門本邸、  
立岩遺跡、嘉穂劇場。

いづかどんたく宿場まつり(春)、  
筑前いづか雛まつり(3月)、  
飯塚国際車椅子テニス大会(5月)、  
納涼花火大会(8月)、永昌会(12月)

## ・近くの特産品

饅頭、最中、りんご、菊、柿、スープ。

